



## 以前は3日かかっていたプラン作成は1日で完成するようになり 確認審査でも審査機関から修正を求められることは無くなった

「特に私たちの間で問題になったのは、天空率を用いた箇所へ修正指示が入った場合の対応についてでした。と言うのは、そのCADを使うと修正自体に労力がかかるからです。たとえば“もっと後退距離を”とか“地盤面の設定はこう”などといった指示が入ると、その対応で半日から一日かかってしまいます。それでなんとか仕上げようやく再提出しても、もしも再度指摘が入ってしまったらもう一度やり直しということになります」（高濱氏）。こうなると、さすがにそのCADを使い続けることは難しくなってくる。ちょうどその頃、ポリウムチェック依頼が増え始めたこともあって、新たな天空率ソフトの導入検討が始まったのである。

「その頃、偶然ADS-winのDMをもらったんですよ」と語り始めたのは、設計チームを主導している鈴木充広会長である。「ソフトについては私たちも詳しくないので、WEB等を使って天空率ソフトの製品を調べてみたんですね。すると最初に出てくるのがやはりADS-winなんです。さらに顧客である上場企業のゼネコンに質問したのは鈴木社長である。「訊くと即座に“天空率ならADSですよ”と返されて……やはり有名なソフトなんだな！と確信したんです。他にも私たちが知っている大手有名企業が何社もADSを使っていて“それなら”と導入を決めました」。

### ADS-winの活用でより速く、正確に

通常なら操作研修を受ける等、新ツールを導入するには一定期間を要するのが一般的だろう。しかし当時はそのような余裕もなく、高濱氏が担当する案件でいきなりの実戦投入となった。「最初はプランの仕事でしたが、直後にポリウムチェックが入りました。そこで日影や天空率の検討を求められ、導入したばかりのADS-winをいろいろ触って独習し慣れていったんです。たぶん2~3件もや

れば基本操作はひと月で修得できるでしょう。もちろん特殊な道路や領域範囲が複雑な物件は調べる必要がありますが……」と遠慮がちに語る高濱氏だが導入効果は絶大だった。

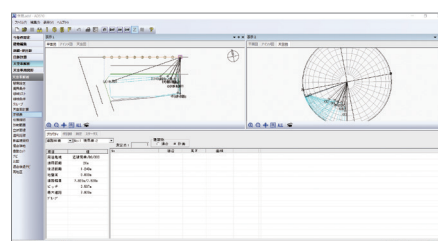
「シンプルに業務が簡易化されたというか、簡単になって作業スピードが上がり、プランを仕上げるまでがぐんと早くなったんです。簡単なアタリを付けることも容易で、すごく助かった実感があります」。そんな高濱氏の言葉に鈴木社長も大きく頷く。「本当にあの時のADS-win導入は当社の事業拡大の背中を強く押ししてくれたと言えます。ポリウムチェック案件の数も体感で1~2割は増えた気がしますね。当時はプラン案件もけっこう混んでいたし、プラン作成のスピードアップも本当にありがたかった」（鈴木社長）。

「何と言っても以前3日かかっていたプランが1日で出来るようになりましたからね。さらに3~4日かかっていたような複雑な敷地でも、いまは2日あればできますし……。また、精度についてもADSの効果は明らかですよ。前述した確認審査に関しても、私たちが最初の設定さえ間違えなければ、以前のように審査機関から指摘が来ることもほとんど無くなっています」（高濱氏）。もちろんこの成果は営制一体となった大きな努力があったからこそなのは間違いないが、ADS-winの導入と積極的な活用が同社の事業フィールドの拡大と安定成長に貢献できたことは間違いないようだ。——最後にオフィス鈴木の今後の展開について、鈴木社長に聞いてみた。

「当社は昨年、新たに不動産事業へ進出を開始しました。今後はこれを大きく育てて、設計部門と並ぶ事業の柱とすることが次の目標となります。売上比率では現状9対1で設計がリードしていますが、今後2~3年でこれを7対3程度に育てたいですね」。



取材風景



ADS-win 天空率計算



ADS-winによる作業



本社オフィスは東京・銀座にある